（別紙様式　小中学校用）

平成２１年度指定　新しい職を活用した研究モデル校　研究報告書

学 校 名　　高知市立旭東小学校

学校長名　　社領　修作　印

１　研究テーマ

○円滑な学校運営における主幹教諭の取り組みの在り方を研究し、学校の組織的な教育実践や校内研修の活性化を図る。

○ 城西中学校との連携をより緊密に行い、「中１ギャップ」解消に向けての取り組みを研究する。

２　研究内容

① 新しい職を設置した組織体制の整備と効果的な運営方法について研究する。

② 本校の教育課題に対して、学校全体で取り組む仕組みづくりを研究する。とりわけ、本校の課題となっている、落ち着いた学習環境を整えていく上において、主幹教諭が図書室での読書指導を担当し、学級担任や図書室支援員とともに、読書に親しむ教育活動の研究に取り組む。

③ 職員による学校評価においては、主幹教諭を含めた各教員の校務分掌上の役割における検証を行う。

④ 城西中学校との「小中連携」の在り方を研究し、取り組みを強化する。

３　新しい職の配置による組織体制

① 校長・教頭・教務と併せて、主幹教諭を学校運営スタッフとして明確にし、より学校運営の要としていくために、学校運営機構上の「企画運営委員会」とは別に、より小回りの効く「スタッフ会」を設置し、主幹教諭を中心として意図的に毎週実施した。

② 緊急に対応しなければならない内容や、諸問題等については、校長の方針に基づいて、教頭と主幹が協力して企画・立案したものを、「スタッフ会」で検討し、職員会議で提案・伝達することにより、早期に取り組めるようにした。

③ 学校保健委員会、城西中校区小中連携の会(人間関係づくり研究)、開かれた学校づくり推進委員会、研究推進委員会、道徳教育推進地域協議会等の、学校運営を支える各会議に、主幹教諭を位置づけた。

４　新しい職の活用状況

① 学校運営への参画では、週のはじめにミーティングを定例化して行い、行事予定の確認や準備等の進捗状況について確認する。主幹もこの会議に参加をして、学校全体や児童の状況をもとに意見を述べ、諸問題の早期発見や対応に向けて、取り組みの方策等を管理職とともに検討する。

② 人材育成のために、校内研修の計画的かつ効果的な実施を目指して研究主任と連携する。また、「文部科学省指定事業・道徳教育実践研究発表会」の開催に向けて、研究文書のとりまとめや校内の体制確立に取り組む。併せて、初任者配置校担当教員として研修計画作成やその実施に関与する。

③ 学校力のアップのために、各学級の授業に関わる中で、学級経営や指導方法改善について助言や支援を行う。また、各学級における授業時数の管理に携わり、新教育課程への円滑な移行のための条件整備を行う。

④ 落ち着いた教育環境づくりのため、特に学校図書館の整備と活用の充実を目指して、図書館支援員や図書ボランティア等との協力体制を確立する。

⑤ 小中連携のために、城西中校区の研修会に参加し児童生徒の情報交換を行う。

５　具体的な取組

① 学校運営参画の取り組みとして、管理職等との「ミーティング」を定例化(週始めに実施)し、学校行事予定の確認や運営上の諸問題について意思一致を図った。ミーティングは、校長・教頭・主幹教諭・教務主任・事務職員〔教務と事務は必要に応じて参加〕で実施し、当面の学校運営上の諸課題について検討し円滑な実施を目指してきた。

② 教頭の補佐機能として、教育計画の作成、学校行事の運営や連絡調整、提案文書や配布文書の確認、授業時数の管理、校内研修の円滑な実施のための下支えを行った。

③ 対外的な諸対応について、教頭補佐としての役割を果たした。また、内容によっては教頭との役割分担を明確化する中で、主幹教諭に任せられた業務についてはその主たる運営に携わった。

④ 研究主任〔道徳推進教師〕と連携をし、校内研修の効果的な実施に努めた。

⑤ 初任者を含めた人材の育成の面では、豊富な教育実践を生かして、教育活動の充実のため折りに触れ助言を行った。また、初任者配置校担当として、研修計画や研修報告書の作成等、研修の円滑な実施を図った。併せて、初任者の指導力向上のための指導や助言等を行ってきた。

⑥ 学校図書館を活用した授業を企画し、全学級を対象に授業実践(週 14 時間)に取り組んだ。また、学校図書館支援員や学級担任と協力して、図書購入計画作成、図書台帳管理、新着本受け入れと図書館運営等を行い、より良い読書環境整備に努めてきた結果、児童の貸し出し冊数の増加に見られるように読書に親しむ児童が徐々に増えてきている。

６　研究の成果

① 研究指定前の平成 20 年度までは、教務的校務分掌と対外的な窓口業務のほぼ全部を、教頭が受け持ち行ってきたが、主幹教諭がこれまでの教務的な校務分掌を部分的、あるいは全てを受け持ち、併せて任務や役割をより明確化していくことによって、教頭が学校全体に目を向けることが可能となり、児童支援にもあたる事ができるようになってきている。

② 基本的に毎週始めに、ミーティングを行うことにより、早急に対応すべき諸問題の確認や整理、学校行事の準備等について意思一致が図られ、より小回りの効く対応がとれるようになってきたため、学校運営全体の円滑な実施につながっている。特に、緊急対応を要する事態が発生した時には、管理職と主幹教諭が相談し協力してすばやく対応できるため、対応上のミスや抜かりを減らしていくことにもつながっている。

③ 各学級１時間〔週 14 時間〕の授業を受け持つことは、児童の状態や、学年・クラスの状況をより正確に認識することにつながり、様々な対応等について検討していく際にも大変役立っている。併せて、配置校担当教員として、初任者研修の円滑な実施にとどまらず、学級経営や授業改善に対する適切な助言を行うこともできており、教育活動充実の面においても一定の効果が出ていると考えられる。

④ 学校図書館を活用した授業の改善に取り組んできた結果、児童の読書量も増加の傾向となっていて、全校的に落ち着いた学習環境づくりのために効果が表れているようである。

⑤ 中学校との小中連携強化に向けて情報交換や研修に参加し、人間関係づくりプログラムの計画や実施に携わった。

7　課題の分析と考察
①　活用方針については、一定の規準のもと実施することが重要ではあるが、各学校における重点課題に対して、より早く効果的に活用可能な、フレキシブルなものであってほしい。 ②　学校課題に向けて有効に活用していくためには、管理職や教務主任との連携や協力がより円滑に行えるよう、一層、運営機構上に明確な位置づけをしていく必要がある。 ③　モチベーションを高め、組織におけるアイデンティティーをさらに確立していくためにも、一定期間の主幹教諭での成果については、管理職登用における確かな「実績」として評価していく方向性を今後とも堅持し、この方向はひろく公表していく必要性がある。 ④　教員の世代交代期を目前にし、リーダー育成・人材育成の視点からも、主幹教諭の配置をさらに拡大して、新しい世代の教員が、学校運営に参画できる機会を大いに増やしていくことが大切である。 ⑤　配置については、一定の規準の下、定数外の加配としていくことが、学校課題の解決や、学校運営の円滑な実施につながっていくと考える。 ⑥　効果的な活用をすすめていくためには、これまでのモデル校における取り組みの成果や課題について、未配置校を含めて公表していくことが大切であると考える。

※　各欄は、必要に応じて広げてください。